

1.3 ひとり親世帯になったことを契機とした転職

ア 母子世帯になる前に就業していた者のうち、母子世帯になったことを契機に転職をした者が 45.5 % となっている。なお、仕事を変えた最も大きな理由として、「収入が良くない」が 35.4 % と最も多くなっている。

イ 父子世帯になる前に就業していた者のうち、父子世帯になったことを契機に転職をした者が 18.3 % となっている。なお、仕事を変えた最も大きな理由として「労働時間があわない」が 25.9 % と最も多くなっている。

表 1.3-1 母子世帯になったことを契機とした母の転職の有無

	総数	転職した	転職していない	不詳
平成 28 年	(100.0)	( 45.5)	( 49.4)	( 5.1)
令和 3 年	942,002 (100.0)	428,483 ( 45.5)	480,978 ( 51.1)	32,542 ( 3.5)

注：1) 令和 3 年度の調査結果は推計値であり、平成 28 年度の調査結果の構成割合との比較には留意が必要。なお、比較に当たっては、政府統計の総合窓口（e-Stat）に掲載している実数値の構成割合と比較を行う必要があることに留意。

注：2) 母子世帯になる前に就業していた者に限る。

表 1.3-2 父子世帯になったことを契機とした父の転職の有無

	総数	転職した	転職していない	不詳
平成 28 年	(100.0)	( 24.7)	( 71.1)	( 4.1)
令和 3 年	143,823 (100.0)	26,328 ( 18.3)	112,169 ( 78.0)	5,327 ( 3.7)

注：1) 令和 3 年度の調査結果は推計値であり、平成 28 年度の調査結果の構成割合との比較には留意が必要。なお、比較に当たっては、政府統計の総合窓口（e-Stat）に掲載している実数値の構成割合と比較を行う必要があることに留意。

注：2) 父子世帯になる前に就業していた者に限る。

表 1 3 - 3 - 1 母が仕事を变えた理由 (最も大きな理由)

	総 数	収入がよくない	勤め先が自宅から遠い	健康がすぐれない	仕事の内容がよくない	職場環境になじめない	労働時間があわない
平成 28 年	(100.0)	( 38.0)	( 9.9)	( 4.8)	( 0.7)	( 1.7)	( 12.4)
令和 3 年	428,483 (100.0)	151,885 ( 35.4)	46,402 ( 10.8)	21,855 ( 5.1)	5,372 ( 1.3)	10,034 ( 2.3)	60,060 ( 14.0)

	社会保険がない又は不十分	休みが少ない	身分が安定していない	経験や能力が発揮できない	自営業等で就業していたが離婚したため	その他	不詳
平成 28 年	( 0.0)	( 1.3)	( 2.5)	( 0.8)	( 6.5)	( 15.1)	( 1.8)
令和 3 年	19,773 ( 4.6)	6,176 ( 1.4)	8,556 ( 2.0)	2,600 ( 0.6)	29,107 ( 6.8)	63,577 ( 14.8)	3,084 ( 0.7)

注：令和 3 年度の調査結果は推計値であり、平成 28 年度の調査結果の構成割合との比較には留意が必要。なお、比較に当たっては、政府統計の総合窓口 (e-Stat) に掲載している実数値の構成割合と比較を行う必要があることに留意。

表 1 3 - 3 - 2 父が仕事を变えた理由 (最も大きな理由)

	総 数	収入がよくない	勤め先が自宅から遠い	健康がすぐれない	仕事の内容がよくない	職場環境になじめない	労働時間があわない
平成 28 年	(100.0)	( 17.7)	( 6.3)	( 6.3)	( 1.0)	( 6.3)	( 22.9)
令和 3 年	26,328 (100.0)	5,443 ( 20.7)	1,364 ( 5.2)	1,414 ( 5.4)	0 ( 0.0)	676 ( 2.6)	6,808 ( 25.9)

	社会保険がない又は不十分	休みが少ない	身分が安定していない	経験や能力が発揮できない	自営業等で就業していたが離婚したため	その他	不詳
平成 28 年	( 3.1)	( 7.3)	( 0.0)	( 2.1)	( 2.1)	( 20.8)	( 4.2)
令和 3 年	849 ( 3.2)	1,574 ( 6.0)	1,404 ( 5.3)	644 ( 2.4)	891 ( 3.4)	4,907 ( 18.6)	354 ( 1.3)

注：令和 3 年度の調査結果は推計値であり、平成 28 年度の調査結果の構成割合との比較には留意が必要。なお、比較に当たっては、政府統計の総合窓口 (e-Stat) に掲載している実数値の構成割合と比較を行う必要があることに留意。